

標(しるべ)発刊にあたって ～先輩から後輩へのアドバイス～

沖縄県立首里高等学校
校長 田 名 裕 治

令和8年度も合格体験記「標(しるべ)」を発刊することができました。寄稿した多くの卒業生並びに編集に携わった先生方に感謝申し上げます。

発刊13回を迎え、そのページを開くと、合格体験記として丁寧に実体験を踏まえた温かくも具体的なアドバイスがあり、一読するだけで進学についての考えが深まり、その言葉を実践に移そうと思うはずです。その行動に期待です。

さて、これまで沖縄県の学校教育に寄与してきたという自負と多くの経験値から進学(合格)について一言申し上げ、首里高生の「進学(合格)にむけた標(しるべ)」としてもらいたいと思います。

県教育委員会(県立学校教育課)勤務時代の5年間、多くのことを学びました。平穏で過ぎる日はほとんど無く、常に何かに追い立てられていたような業務環境でした。ただ、5年の勤務で自分自身が本県教育の一端を牽引しているのだという矜持は常に持っていました。

行政経験の中で最も大きな財産となったのは、優秀な上司や同僚達との仕事を通しての関わりでありました。「人間は自分一人で自分という人間を形作ったのではない。自分以外の人間との関わりによって、それらはできていくものなのだ。」日本の実業家の牛尾治朗さんの言葉です。

私が長らく教員として勤務できたと同時に教頭、副校長、校長と勤務できていることも、「人との関わりが人を創る」の言葉が示していると実感しています。間違いなく私を創ってくれたのは多くの人たちとの関わりであります。

鎌倉時代初期の禅僧である道元も牛尾さんと同様の事を述べました。「霧の中を歩めば、覚えざるに衣湿る」と。霧の中では傘も蓑も必要なく、歩いていると自分が濡れている自覚さえありませんが、いつのまにか衣が湿りきっているのに気付きます。人間の成長には出会いがあり、付き合い通していく中で、その出会う人達から受ける影響は計り知れません。自分では意識していないのにいつの間にか、成長の鍵となっています。

首里高生の諸君はどうだろうか。本校での学びを通して先生方や先輩・後輩達から影響を受け、自分自身を形成しているだろうか。私の目に写る君達は、多くのクラスメイト、そして先輩・後輩、先生方や保護者・地域の皆様との「関わり」の中で、大きく成長している様に観える。

発刊された「標(しるべ)」は、この3月に卒業した首里高81期生や81期生の進学(合格)の為に言葉で紡ぎ繋いできた多くの先輩の「形」で、「人との関わりが人を創る」の大切さを説いているものとなっています。「標(しるべ)」で進学(合格)の形を創り上げる首里高生の関係性や人間性は、一生の宝物です。そして学校全体で「進学(合格)」に向け繋いでいく達成感や成就是何物にも代えがたい財産でもあります。君達一人ひとりが創り上げる「進学(合格)」に大きな期待をしています。